

島根県立情報科学高等学校 平成30年度学校評価表 NO. 1

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、30年度目標値に対する平成31年1月末の評価値で算出

評価計画						自己評価					学校関係者評価				
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	29年度評価値	30年度目標値	H30年度			結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント	
								評価値	達成度	評価					
確かな学力の育成	基礎学力の定着	望ましい学習習慣の形成	教務	望ましい学習習慣の形成と学力の向上 ①授業の始めと終わりの時間厳守、挨拶の徹底と、望ましい授業態度の育成 ②適切な課題による家庭学習の習慣化	(1)望ましい授業態度が身に付いている生徒の割合	95%	98%	95%	97%	B	教職員アンケートの「好ましい学習態度…」が「昨年60%→昨年76%→本年79%と推移しているのに対し、生徒アンケートの「授業には常に真剣に取り組んでいる」割合は、92%→91%→89%と若干の低下傾向にある。生徒は現状に満足しているわけではなく、もっと良くなりたいと考えていると捉え、指導にあたりたい。	生徒アンケート1・2	B	・数値で表すと評価は低く感じられるが、実際の生徒は良い方向へ変化しており、数値だけでは計れないところもあると感じた。 ・個別指導については、昨年と比較して評価が高くなっておりよい。今後も引き続き指導いただきたい。 ・資格取得へ向けて、生徒の意欲が上がるような声かけをお願いしたい。	
					(2)課題等を提出している生徒の割合	92%	95%	92%	97%	B	平均すると92%であるが、1学期から2学期にかけて、1・3年生で5%程度低下した。特に3年生は10%近く低下しているクラスもあり、今年度も就職試験終了後の生活に課題を残した。例年この時期は、授業に対するモチベーションが低下する傾向もあり、新たな取組の必要性を感じる。	校内統計			
		個に応じた教育の推進	教務	TT及び個別指導の実施 ①TT・少人数指導の効果的な実施 ②個別指導の充実	(3)教材や教え方が工夫されていて、授業内容が理解しやすいと感じている生徒の割合	74%	87%	83%	95%	B	目標値には達しなかったが、昨年度74%・一昨年度80%と比較すると高い水準である。これはICTの活用が進んだことなどを反映したものと考えられる。学年会や教科を中心に、理解が遅れがちな生徒への支援の輪が広がってきているように感じる。学校全体として支援体制が広がるよう関わりを深めたい。	生徒アンケート7	B		
					(4)朝読書に意欲的に取り組んでいる生徒の割合	89%	95%	89%	94%	B	1・3年生よりも2年生の数値が低いのは、図書館を利用する生徒が他学年に比べて若干少なく、その影響が朝読書への取組にも表れたと考えられる。日頃から図書館を利用している生徒は、実際に図書館に来たことで利用しやすいと感じ、その後何度も来館するようになる傾向があるため、図書館へ向かわない生徒に対してどうPRするかが課題である。	生徒アンケート4	B		
	専門高校の特色を生かす	商業・情報教育の推進	商業	特色ある商業・情報教育の推進 ①充実した施設・設備を活かした先進的な授業の実施 ②資格取得・検定合格のための指導の充実 ③情報ITフェアの成功とビジネスマナー教育の推進	(5)県商研表彰生徒(1級2種目以上取得等)の割合が3年生(90人)の20%以上	68%	100%	56%	56%	C	3年生10名が表彰対象となり、昨年度の12名からは減少した。また、国家試験をはじめ上位級を受験する生徒は増加傾向にあるが、今年度の合格者数は昨年に比べ減少してきている。資格取得には表れないプログラムの作成能力や創造力は年々高まってきていると感じているが、来年度は上位級を含め、資格取得率の向上に努めたい。そのためにシラバスの変更を実施するとともに、授業力向上に向けた対策を実施したい。	校内統計	B		・外部との連携事業が増えたことは評価できるが、資格取得も大切なので両方が一緒に充実していくことを期待する。 ・学校の進むべき方向性はこれでよいと思う。
					(6)情報処理国家試験の合格人数5名以上	80%	100%	20%	20%	C	ITパスポート試験の合格者は1名であった。目標に届かなかったが、高い目標に向かって意欲的に取り組む雰囲気は出来ている。県のIT人材育成事業も本校実施4年目となり、今後より一層情報教育の底上げと、上位資格に合格できるよう指導方法の工夫と改善を図りたい。そのために1年次より、先を見越した一貫した指導体制の見直しを図りたい。	校内統計			
					(7)情報ITフェアでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	91%	95%	81%	85%	B	情報ITフェアは、生徒が責任とやりがいを感じながら業務を行い、来場者に喜ばれるサービスを全校生徒一丸となって提供できた。第3回目、そして全国唯一の取り組みを継続して実施している意義を感じつつも、来年度以降もさらに従来の取り組みに縛られることなく、本校らしい取り組みへと変化させ、今年の反省を生かしてさらに進化した内容としたい。来年度は第4回目となり、地域から真新しさという変化を求められることもあるだろうが、生徒の学びと成長という実施の柱がブレることのないよう、より本校らしい学校行事にするための改革を行いさらに充実するよう努めたい。	生徒アンケート5			
豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣の確立と学校生活の充実を図る	望ましい生活習慣の育成	教務生徒商業	基本的な生活習慣を育成する指導 ①個々の登校状況を把握し、全教員が連携した欠席・遅刻の防止(週2回、月5回以上の遅刻を目安に個別指導実施) ②挨拶の励行(立ち止まって挨拶するよう指導) ③計画的指導にもとづく頭髪・服装規定の遵守、徹底 ④礼法指導の徹底(ウィークスタートの実施)	(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	99%	99%	100%	A	統計上は99%となるが、実際には98.5%をわずかに超える程度であり、例年と比べると低い。特に1年生の2学期の出席率は97.2%と、低い結果となった。原因は人間関係の悩みによるところが大きく、学年会や保健部と連携し、情報を共有しあいたい。	校内統計	A	・全体的に達成度は高い。挨拶や礼法は、実際に学校で生徒を見るとよく分かる。しっかりと指導されているようだ。 ・日頃の指導や努力は十分に感じられる。多少の問題は当然あるものと思う。	
					(9)遅刻をしない生徒の割合	99%	99%	99%	100%	A	遅刻をしない割合は通院等による遅刻も含めて99.6%であり、昨年度(99.5%)よりも若干高くなった。今年度も寝坊等による遅刻が少ない状況が続いており、学校に出席できている生徒は、規則正しい生活をしなければという思いがあることがうかがえる。遅刻届の提出の際の声掛け等も通じて、さらに遅刻を減らせるよう指導したい。	校内統計			
					(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合	92%	95%	93%	98%	B	生徒指導部や学年会を中心として身だしなみ検査を実施することにより、学校生活全般において、落ち着いた生活が送れるようになってきた。しかし、学校を離れると服装の乱れ等目にすることもあり、登下校を含め情報生としての振る舞いを意識させていきたい。	校内統計			
	人権意識の高揚を図る	人権・同和教育の推進	生徒	他人を思いやる心、感動する心の育成 ①生徒会・部活動の活性化 ②上級生が下級生をサポートする仕組み(JS制度)の創設 ③アンケートQU(心理検査)、生活アンケートの実施と活用	(11)自分の居場所があり、人から認められていると感じている生徒(アンケートQUで学級生活満足群に属する生徒)の割合が、54%以上<前年度の本校の値以上53%>	98%	100%	94%	94%	B	毎年全国平均値と比較すると本校の数値は非常に高い数値である。しかし、昨年度に比べ2%低下した。1年生62%2年生55%と満足している生徒の割合は多いが、3年生33%と全国平均値を下回る結果となった。昨年度から現3年生の数値が低かったこともあり、学年会を中心として学校行事・進路実現等に適切に対応した。また、1年生の傾向を見ると、人間関係を構築することができず悩んでいる生徒が増えてきている。部活動・HR活動・校内行事・授業等でお互いを高め合える場を増やしたり、個人面談の場を設けるなど生徒理解に努めていきたい。	アンケートQU結果 本校 51% 全国 36%	B	・自転車のマナーは家庭での指導も必要と考える。 ・高校生活の中で何かに一生懸命取り組み、やり遂げ、達成したときの喜びを感じることができると自信に繋がる。そうした環境や機会、人との関わりをつくってあげることができればよいと思う。 ・自分が得意とすること(部活動等)を生かし切れてないように思う。	
					(12)自己肯定感が高い生徒の割合	57%	75%	66%	88%	B	自分に自信がない、または、自分の良いところを見つけて出せない生徒が多く見受けられる。特に1年生に多かった。しかし、2・3年生は、昨年度よりも評価値が15%以上上昇しており、本校の教育活動や学校生活を通して自己肯定感を獲得していると思われる。自己肯定感が低い入学生が多いことを全教職員が認識し、スモールステップを設定してやり遂げる力を育成する教育活動を推進したい。	生徒アンケート13	B		
					(13)差別や人権問題を自らの問題として捉えている生徒の割合	—	80%	66%	82%	B	HR活動の人権学習では、生徒が人権問題を身近な問題として捉えられるよう、グループ討議の時間を設け、グループごとの意見を発表する活動を行っている。また、日々の学習・生活指導においては、教職員が生徒の人権を尊重した指導を行うことが、生徒の人権意識の向上につながると考え、適切な指導を心がけている。さらなる向上をめざして継続していきたい。	意識調査5			
(14)人権に関する講演会やHR活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	82%	90%	84%	93%	B	1年生では、4月に行った意識調査結果をもとにHR活動の内容を設定・実施した結果、高い評価値が得られた。来年度は、今年度実施できなかった講演会を実施したい。	生徒アンケート8								

# 島根県立情報科学高等学校 平成30年度学校評価表 NO. 2

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、30年度目標値に対する平成31年1月末の評価値で算出

評価計画					自己評価						学校関係者評価					
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	29年度評価値	30年度目標値	H30年度			結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント		
								評価値	達成度	評価						
進路保障	進路指導の充実・強化	進路指導の充実及び定着指導の強化	進路商業総務	望ましい勤労観・職業観の育成 ①HR等を利用した計画的な進路指導の実施 ②企業見学、インターンシップの実施 ③外部講師を招いた進路ガイダンスの実施 ④ハローワーク、県関係機関等との連携強化 ⑤進路面談の積極的実施と、進路情報の確実な提供 ⑥各種適性検査や学力模試の実施と活用 ⑦修学支援制度の活用推進	(15)在学中に進路決定する生徒の割合	99%	100%	99%	99%	B	就職は、昨年同様好景気の前で、ほとんどの生徒が11月中に内定を得ることができた。進学についても、希望の学校に順調に合格することができた。自己理解をしっかりと行い、さらなる高い目標に向かって努力し、達成した生徒がいる反面、基礎学力の不足のため受験準備が遅れてしまう生徒もいた。今後も、1年次より生徒同様保護者にも積極的に情報提供を行い、1年次から進路実現への高い意識を持ってもらえるよう働きかけたい。	校内統計	A	・自己決定力がまだ育っていない年齢なので、もう少し寄り添った指導ができるとよいのではないかと。 ・就職者は地元に残り、できるだけ長く続けてほしい。そのためには、適性を正しく見極め、その生徒にあった就職になるとよい。 ・ほとんどの生徒が内定を得て進学も順調である。引き続き指導をお願いしたい。		
				(16)進路に関する学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	89%	90%	88%	98%	B	企業見学は、1・2年生ともに地元企業や学校のことを学ぶよい機会となった。ただし、2年生が見学する企業・学校については、各学科の特色を生かすという観点と、将来就くであろう業種という観点で考えると選定が難しく、毎年苦勞している。3月の企業説明会は定着し、ここで進路選択のきっかけになった生徒もおり、大変有意義な取り組みであるといえる。進路ガイダンスでは様々な情報を得、今後の適切な進路選択につながる動機付けになるため、各学年に合ったプログラムを展開していきたい。	生徒アンケート15・16					
たくましく生きるための健康・体力	健康教育の推進	安全で清潔な環境作り	保健	安全点検の実施と校内美化活動の推進 ①安全点検の定期実施 ②清掃指導の徹底 ③教員及び生徒(委員)による校内巡視の実施 ④ゴミの分別収集の徹底	(17)真面目に掃除に取り組んでいる生徒の割合	92%	95%	92%	97%	B	清掃は教員が清掃担当区域に行き率先して掃除をしたり指導をし、生徒も概ね真面目に取り組むことができた。安全点検を毎学期末に実施し、修繕が必要な箇所は対応した。ごみは、時々放置や外部から持ち込みの物が捨ててあることがあるため「自分のごみは自分で持ち帰る」など、環境美化の意識をさらに高めさせる指導をしていきたい。	生徒アンケート9	B	・自転車の施錠や朝食の摂り方は起床時間に関係する。早く寝て早く起きることで改善に繋がると思う。 ・スマホの正しい使い方など情報モラルに関する指導を増やしてほしい。 ・この学校評価の項目の中に、携帯・スマホに関する項目を追加してほしい。		
				健康に関する自己管理意識の高揚	保健に関する啓発 ①生活習慣に関するアンケートの定期実施 ②「保健だより」の発行・「保健ニュース」の掲示による啓発	(18)朝食をとっている生徒の割合	82%	95%	90%	95%	B	生活習慣に関する生徒アンケートの結果では、毎日朝食をとっている生徒の割合は昨年度より8ポイント改善した(H29はH28比4ポイント改善)。他の調査結果も含め学園祭の展示で示し啓発した。引き続き、便りや指導により、根気強く自分の健康に気を配る生活習慣が身につくよう働きかけをしていきたい。			保健委員会アンケート	
				不登校の未然防止	教育相談体制の充実 ①スクールカウンセラーによる教育相談の実施(月1~2回) ②「明るい学校推進委員会」の定期実施	(19)年間欠席日数が30日未満の生徒の割合	100%	99%	97%	98%	B	今年度もスクールカウンセラー事業を活用した。カウンセリングにより、不安や悩みを抱えている生徒の気持ちが前向きになると同時に、教員や保護者も生徒への対応や支援方法などに関する情報を支援に生かすことができた。校内の支援委員会もほぼ毎月行い情報交換をし、必要に応じて外部機関のアドバイスも受けながら支援方法を相談し、支援を行った。今後もこれらを継続し、生徒が元気に学校生活を送れるよう生徒に寄り添った指導や支援を行いたい。			校内統計	
				部活動の活性化	部活動への積極的参加の促進 部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実	(20)部活動に入っている生徒の割合	89%	90%	87%	97%	B	例年並みではあるが、学年会・顧問等連携を図り、部員の確保に努めることができた。しかし、担当する部活動の顧問によっては、専門性がなく指導に戸惑いを感じている場面も見受けられた。今後は教員の研修会や生徒リーダー育成のための指導会などを設け、部活動をより活性化させていきたい。			校内統計	
				安全意識の高揚	生徒	安全に関する自己管理意識の高揚 ①街頭指導(春・秋)の実施 ②貴重品の管理と自転車の施錠の徹底 ③自転車点検の実施(年複数回) ④交通安全指導の実施(交通マナーの遵守) ⑤不審者情報等の情報提供、周知徹底	(21)自転車のマナーを守り、事故防止につとめている生徒の割合	98%	100%	98%	98%	B			今年度は、自転車の接触による事故が2件発生した。件数で見ると他校と比較しても少ない件数ではあるが、事故は0件にしたい。また、今年度は外部の方から6件自転車のマナーについて連絡があり、街頭指導を行った。来年度は、事故を未然に防ぐためのチラシづくり・街頭指導等委員会を中心に活動していきたい。	生徒アンケート10
						(22)自転車の施錠率	64%	100%	98%	98%	B	今年度は、委員会を中心にほぼ毎日街頭指導を行った。その成果もあり、施錠率が大幅に向上した。来年度は、他者の力を借りず、生徒自らが意識を持って取り組めるよう努めていきたい。			校内統計	
(23)貴重品ロッカーの施錠率	53%	80%	72%			90%	B	今年度も委員会を中心にほぼ毎日昼休みにロッカーの施錠検査を行った。昨年度に比べ貴重品ロッカーを使用する生徒数は増加している。金品等紛失する生徒はいなかったが、学校生活中に携帯電話を使用する生徒は後を絶たない。自己管理の意識向上に向けた呼びかけやチラシづくり等啓発活動に努めていきたい。	校内統計							
信頼される学校	授業力の向上を図る	学習内容と指導の充実	教務	教科指導力の向上と分かりやすい授業の工夫 ①公開授業・研究授業の実施と互見による教科指導力の向上 ②シラバスに基づいた入念な教材研究と指導	(24)公開授業、授業参観を合わせて5回以上行った教員の割合	100%	100%	100%	100%	A	今年度は、県の事業である「主体的・対話的で深い学び」の学習指導案提出を意識して授業公開が行われる例が多く、良い流れだと考えている。生徒の授業への取り組み状況を向上させるためには、教員がより良い授業をすることも必要である。そのためには授業公開や授業参観を行い、自らの授業を振り返ることは不可欠であり、こうした傾向が続くように働きかけていきたい。	校内統計	A	・学校ホームページ(HP)は見やすくなったにも関わらず閲覧率は低い。閲覧対象となる方が興味を持ってコンテンツを考えたらい。例えば、「部活動の動画」「公開授業ダイジェスト」「マスコミ取材等の告知」など。 ・フェイスブックの機能を利用し、HP閲覧数を増やすことに繋げることはできないか。 ・ボランティアは地域へ恩返する意味でも積極的に参加するべきである。		
				地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	保護者、地域、中学校との連携の強化・深化	総務	PTA活動の一層の活性化 ①「PTA会報」等の発行 ②HP・携帯電話用HPや文書による学校からの情報提供充実 ③各種研修会等の充実	(25)PTA会報、学年だより等を読んでいる保護者の割合	74%	90%	76%	84%			B	評価値は昨年とほぼ同じくらいとなった。内訳として、「連絡文書等」は81%、「PTA会報誌」は70%となっている。子どもから受け取っていないのか、受け取ったが読んでないのかは不明だが、学校としては配付方法のさらなる工夫を検討したい。評価値には含まれていないが、ホームページの閲覧率は36%と低い。保護者や地域の方、中学生にも興味を持ってもらい、多くの方がアクセスしやすくなるようなHP構成を検討し、PRにも努めたい。
	地域との連携 ①地域ボランティアへの積極的な参加の奨励 ②安来市主催の催しやその他諸地域の活動への参加	(26)地域ボランティアに参加している生徒の割合 依頼件数に対する参加割合	83%				85%	82%	96%	B	依頼のあったボランティア活動(11件中9件参加)については、しっかりと参加することができた。しかしながら、昨年度に比べ参加する生徒の数が減ってきている。来年度は、参加する生徒数が増加するよう学年会・部活動単位等で幅広く呼びかけ多くの生徒が地域に貢献できる場を増やしていきたい。	校内統計				
	総務	教務	中学校との連携 ①出前授業、招待授業実施 ②オープンスクール実施 ③中高連絡会の充実と学校説明会への積極的参加 ④部活動での連携 ⑤小中学校教員対象研修の実施 ⑥合同教科部会、合同公開授業の実施	(27)連携ができたと感じている教職員の割合	79%	75%	76%	101%	A	評価値は昨年に比べて多少下がったがほぼ変化がなかった。オープンスクールや情報ITフェア等の実施により、多くの中学生の参加を得た。また、出前講座や中高連絡会等による連携事業により、教員間の連携にも一定の成果は得られた。しかし、それらの事業に主として関わっている場合とそうでない場合とで、連携の意識に温度差があるように思う。中高連携をこれまで以上に広い範囲で捉え、より多くの教職員が、より多くの場面で連携を図ることができればと考える。	教員アンケート18					